

平成26年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文  
中学校の部 最優秀賞



## 私には夢がある

小野町立小野中学校  
3年 石井 野絵

### 「I Have a Dream」

という願いが繰り返された有名な演説がある。アメリカのキング牧師による「私には夢がある」という名で知られる演説だ。私はこの演説を知ったとき、大きく心を揺さぶられた。これからの国際社会において最も大切なことが、この演説に込められていると感じた。未来の社会を担う一員として、私も「夢」をもち続けたい。

アメリカは以前、深刻な人種差別問題を抱えていた。特に黒人に対する差別は根の深い問題だった。アメリカ建国において、黒人は自らの意思ではなく「奴隷」として強制移住させられた過去がある。1863年のリンカーン大統領による奴隷解放宣言により、「奴隷」という制度は廃止されたが、激しい差別は残った。裁判という公式な場においてさえ、「白人と黒人の生活を分離する」という判決が出されるなど、日常生活における差別は依然として残されたままだった。

その流れが変わったのは、キング牧師を中心として1950年代半ばから始まった人種差別の撤廃を求める運動だ。非暴力手段を前提とし、法の下での平等を掲げ、差別と闘った。その中でキング牧師が行ったのが、先に挙げた演説だ。彼は黒人のみの権利を主張したのではなかった。人が人として保障されるべき生命の安全、様々な自由、そして幸福は、全ての人に与えられなければならないとして活動した。「あらゆる山々から自由の鐘を鳴り響かせる」ために先頭に立ったのだ。

私は一昨年、アメリカにホームステイをした。初めての海外で緊張していた私に、ホストファミリーはとても優しく接してくれた。家族の一員として迎えてくれた。私はその人と人とのつながりを温かく感じ、その中でアメリカの歴史や風土、文化、互いを認め合い、尊重しあう精神を学んだ。長い苦しみの期間を経て、今を迎えた「アメリカ」を感じることができた。

しかし今でも、見えない差別やそれを原因とする犯罪が続いているという。同じ人間に心や体を傷つけられている人々が数多くいる。私は「差別」という問題がどれだけ難しく、解決の困難な課題なのだろうかと思つた。

この世に自分と全く同じ人間はいない。それぞれの容姿は違い、性別が違い、能力も違う。生まれた場所が違えば、考え方も違う。しかし「違う」からこそ、人は交流し新しい

可能性を手に入れ、発展してきたのだ。単細胞生物のように皆が同じ遺伝子をもっていたら、環境の変化で人類は絶滅していたはずだ。一人ひとりの人間は、かけがえのないただ一人の人間なのだ。「差別」はその大切な一人を汚す、許されない行為だ。

世界の人々がこの考えをもち、目の前にいる一人を心から大切にできるならば必ず「差別」はこの世の中からなくなっていくことだろう。キング牧師は言う。

「人は皆、間違いに気づく本当の自分をもっている。考える頭がある。理解する心がある。行動できる体がある。そして相手を認めることができる。」

私の住む福島は、3年半前の東日本大震災により、変わってしまった。それまでの福島は歴史と自然にあふれた街で、その暮らしがいつまでも続くと誰もが信じて疑わなかった。しかし、震災による津波被害、そして原子力発電所の事故。放射能汚染…。私たちの故郷は大きく変わってしまった。

私の姉が関西に修学旅行に行ったときのことで。見学地で一緒になった他県の高校生が姉たちが「福島」県民であることを知ると、そそくさと離れていったそう。修学旅行のお土産話を楽しみに待っていた私達家族は、悲しそうに話す姉の姿を見て憤りを隠せなかった。いったい私たちに何の罪があるのだろうか。やるせない気持ちになった。

その時、母からこんな話を聞いた。小学校教師である母が児童達と共に、他県に宿泊学習に行ったときのことで。風評被害や避難者に対する差別のことを聞いていた母も子どもたちも、現地の人に避けられるのではないかという不安があったそう。特に母は教師という立場から、差別を受けて子どもたちが傷つくことがあってはならないと神経をとがらせていたらしい。しかし何のトラブルもなく最終日を迎え、福島に帰るバスに乗り込もうとしたとき母は驚いた。宿泊していた宿の方々が大きな応援幕を手に、笑顔で見送ってくれていたのだ。幕には被災地を応援する言葉がびっしりと書き込まれ、「がんばれ！福島」と特大の文字が踊っていた。母は不安が吹き飛び、未来への希望が生まれたと話してくれた。

きっとどこかに風評被害や差別は今もあるだろう。しかしその反対に、私たちのつらさを理解し寄り添ってくれる人も必ずいる。まずは「自分が一人ではない」と考えること。そして「前に進む」こと。傷つくことを恐れずに、未来を信じて、一步を踏み出す勇気をもつことが大切だ。

私は友達的笑顔が大好きだ。家族の笑い声が大好きだ。故郷の優しさが大好きだ。だからこそ、私たちが世界の人に知ってほしい。世界のこともっともっと知りたい。その相互理解、相互尊重の姿勢が真の国際社会の平和につながると考えている。

私には夢がある。それは、「みんなが平等で平和に暮らすことのできる地球に住む」という夢だ。「世界中の全ての人たちが、互いを認め、笑って肩を組み、支え合うことのできる国際社会を実現させる」という夢だ。この夢を私たちの手できっと叶えてみせる、私はそう考えている。